

看護師 2 年課程（通信制）の教育の状況と課題：入学要件の見直しに関する検討

著者	奥 裕美, 井部 俊子, 三浦 友理子, 松谷 美和子
雑誌名	聖路加看護学会誌
巻	23
号	1
ページ	5-12
発行年	2019-07-31
URL	http://doi.org/10.34414/00015331



看護師2年課程（通信制）の教育の状況と課題

—入学要件の見直しに関する検討—

奥 裕美¹⁾，井部 俊子²⁾，三浦友理子¹⁾，松谷美和子³⁾

抄 録

目的：2018年に看護師2年課程（通信制）への入学要件である准看護師業務経験年数が短縮された。本研究はこの入学要件短縮の検討にあたり，2年課程（通信制）の教育の状況を明らかにし，入学要件見直しに関する論点をまとめることを目的として実施した。

方法：2年課程（通信制）の教員を対象とした調査票による量的調査とインタビューを実施した。量的調査の結果は項目別に単純集計を行い，入学時の学生の能力，入学要件が短縮された際に必要とされる対策などについて分析した。インタビューの結果については，インタビュー時のメモ，逐語録に起こしたデータについて，内容が類似したものを抽出し，共通性を明らかにした。研究実施期間は2015年8～9月であった。

結果：調査票は180通送付し，116通を回収した（回収率64.4%）。約半数の教員が，入学要件として適切だと考える業務経験年数は「5年」であると回答した。入学時の学生の「資料や文献を調べる力」や「情報を統合する力」には課題があるとしつつ，入学要件を変更しても，入学後の学習達成度には大きく影響しないと考えていた。入学要件を短縮する場合，「見学実習の受け入れ施設の充実」や「教員の増員」を希望していた。インタビューは延べ46人に対して実施した。さまざまな学歴，業務経験をもつ学生が入学する現状の入学要件，入学者選抜の方法にも課題があること，教育内容，特に実習のあり方について課題があるという意見があった。

結論：2年課程（通信制）の学生と教育の現状を教員に調査した結果，入学要件としての業務経験年数を短縮しても，学生の学習達成度に大きな影響はないと考えられた。入学要件の見直しに関する論点として，多様な学生の学習を保障する教育体制の整備と，充実した臨地実習を行うための方法の検討が必要である。

キーワード：看護学生，看護基礎教育，通信教育，看護師2年課程，入学要件

I. はじめに

現在，わが国で看護師になるためには，①高等学校卒業後，看護師学校養成所3年課程（大学，短期大学，養成所），②中学校卒業後に高等学校・高等学校専攻科一貫教育（5年），③准看護師の免許を取得してから看護師学校養成所2年課程において必要な学習を修め，看護師国家試験を受験し合格する必要がある。看護師学校養成所2年課程には全日・定時制〔以下，2年課程（全日・定時制）〕と，通信制の教育課程〔以下，2年課程（通信制）〕がある。

2001年に発表された「看護師等養成所の運営に関する指導要領」（厚生労働省，2001）によると，2年課程（通

信制）は「免許を得たあと10年以上業務に従事している准看護師を対象に，主として通信学習により二年以上の教育を行うもの」であるが，少子高齢社会で活躍する看護師の育成と確保について対策が講じられるなか，この入学要件を見直し，准看護師としての業務経験年数を短縮することが提案され（国家戦略特別区諮問会議，2015；日本経済再生本部，2015），2018年度からは7年以上の経験により進学が可能となった（厚生労働省，2016）。この見直しにあたっては，2年課程（通信制）における教育の現状を踏まえたうえで，新たな入学要件に見合った教育体制を整備する必要があるが，2年課程（通信制）に入学する学生の特徴や学習状況に関する調査は実施されていない。

そこで，入学要件の見直しに先立ち全国の2年課程（通信制）の学生と教育の状況を教員への調査を通じて明らかにし，論点をまとめることを目的として本研究を実施した。

受付日：2018年10月12日 受理日：2019年5月8日

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科

2) 井部看護管理研究所

3) 国際医療福祉大学成田看護学部

Ⅱ. 看護師養成所2年課程（通信制）における教育の概要

2年課程（通信制）における教育の内容は、2年課程（全日・定時制）と同等であるが、49単位の講義は対面ではなく、通信学習で実施される。1単位の授業科目は、45時間の学修に相当する内容にし、1単位ごとにレポートや単位認定試験等を課すことを標準として達成度を確認する。総単位数の2分の1を超えない範囲で、放送大学など他の教育機関での履修科目の単位が認められる。なお、10年以上の就業経験を有する准看護師は、十分な実技技能を有していると考えられることから16単位（720時間）の実習は、紙上事例演習（24事例程度）、病院等見学実習（16日）、面接授業（24日）で行われる。

教育内容ごとに分けると、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、看護の統合と実践でそれぞれ3事例程度の紙上事例演習と、2日ずつの病院等見学実習、3日の面接授業を行う。平成16（2004）年に養成を開始し、初年度は全国に3校、平成24（2012）年度に24校まで増加し、平成30（2018）年には16校が開講している。各校の学年定員は150～280人程度である。

Ⅲ. 研究方法

1. 調査票によるデータ収集

1) 対象

全国の2年課程（通信制）のうち調査時点で開講しており、次年度以降も閉講の予定がないすべての2年課程（通信制）の教育機関（18校）に所属する教員を対象に、調査票を用いた横断的・量的観察研究と、個別具体的な事例を把握するためのインタビュー調査を実施した。

2) 調査票の配布と回収

教育機関の責任者に本研究への協力依頼を行い、承諾を得られた教育機関に調査票を10部ずつ送付した。調査票には返信用封筒を添付し、記入後の調査票は直接研究者に返送されるものとした。調査票の内容は2年課程（通信制）を含む看護師養成所、看護系大学等の教員、看護教育制度の専門家らによって構成される研究会にて検討し作成した。看護教育に携わった経験のある5人にプレテストを実施し、内容の妥当性を確認した。調査票は個人データのほか、2年課程（通信制）への入学要件について、所属する教育機関での学習について、入学要件を短縮した場合の対策についてなど、8項目11問から成る。

3) データ分析方法

入学要件の変更に対する考え、入学時の学生の能力、就学中に身につけるべき能力、入学要件が短縮された際の学習達成度の変化と必要とされる対策について分析した。入学時の学生の能力については、4段階（「大変ある

（3）」～「ほとんどない（0）」）、入学要件が短縮された際の学習達成度の変化は5段階（「非常に高くなる（2）」～「非常に低くなる（-2）」）、その際に必要となる対策については4段階（「対策がととも必要である（3）」～「対策が必要でない（0）」）のリッカートスケールにて回答を得た。項目別に単純集計およびクロス集計を行った。

2. インタビューによるデータ収集

1) 研究参加者の選定

2年課程（通信制）の教育責任者に依頼状を送付し、当該機関に所属する教員に対するグループまたは個別インタビューへの協力を依頼した。教育責任者には、本研究への参加が教員個人の自由意思であることを伝え、協力を得られる場合、教育機関の教員の代表者または、教員個人から直接研究者に連絡してもらい、実施日時・場所を調整し、半構造化面接を行った。内容は承諾を得て録音した。

2) インタビューの実施

インタビューでは、入学要件および学生の業務経験にかかわる2年課程（通信制）の教育内容の課題、課題の解決策などについて意見を聞いた。看護基礎教育・制度に関する知識があり、2年課程（通信制）の教育とは直接的なかわりがない研究班メンバーが行った。特にグループインタビューでは、グループとして意見を収束する必要はなく、できるだけ個々の意見が述べられるようにするため、多様な意見を評価することなく中立な立場を保ち、参加者全員が判断されることなく自由に意見が交わされるよう配慮した。

3) データの分析方法と妥当性の確保

インタビュー時のメモ、逐語録に起こしたデータを精読し、研究目的である①入学要件の変更に対する考え、②教育内容に関する課題に関連する記述を抽出した。グループインタビューのデータは発言者ごとには区別せず、内容によって①および②を抽出した。そのうえで個別・グループインタビューの記述を合わせて内容に共通性があるものを集め、分類した。記述の抽出、分類の各段階で、2年課程（通信制）を含めた看護基礎教育に携わる教員、研究者等で構成した研究会にて内容を検討し、分類が妥当であるかどうかを確認した。

4) データ収集期間

データの収集期間は、2015年8～9月とした。

3. 倫理的配慮

調査票調査では、研究への参加は個人の自由であることを書面にて伝えた。インタビュー調査においても、自由意思による参加である旨を、インタビュー当日に改めて、ていねいに文書と口頭にて伝えた。個人および組織に関する情報の保護を厳守した。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（15-035）を得た。開示すべき利益相反は存在しない。

表1 2年課程（通信制）入学時の学生の力（教育機関責任者の回答）

項目	全体	回答選択肢					平均値 [†]	
		大変ある	ある	少しある	ほとんどない	無回答	中央値 ^{††}	
看護の仕事に楽しさを感じる事	人	116	2	60	49	5	0	1.51
	%	100	1.7	51.7	42.2	4.3	0.0	2
モチベーションを維持する力	人	116	5	47	62	2	0	1.47
	%	100	4.3	40.5	53.4	1.7	0.0	2
看護の仕事に対する価値観を高める事	人	116	4	46	60	6	0	1.41
	%	100	3.4	39.7	51.7	5.2	0.0	2
看護に対する自己効力感を高める事	人	116	5	42	55	13	1	1.34
	%	100	4.3	36.2	47.4	11.2	0.9	2
時間をマネジメントする力	人	116	4	35	68	8	1	1.30
	%	100	3.4	30.2	58.6	6.9	0.9	2
学習に対して楽しさを感じる事	人	116	3	34	62	16	1	1.21
	%	100	2.6	29.3	53.4	13.8	0.9	2
自己研鑽することに対する価値観を高める事	人	116	4	35	58	19	0	1.21
	%	100	3.4	30.2	50.0	16.4	0.0	2
学習に関する自己効力感を高める事	人	116	3	29	64	20	0	1.13
	%	100	2.6	25.0	55.2	17.2	0.0	2
情報を収集する力	人	116	2	17	79	17	1	1.03
	%	100	1.7	14.7	68.1	14.7	0.9	2
文章を読む力	人	116	2	12	79	23	0	0.94
	%	100	1.7	10.3	68.1	19.8	0.0	2
適切な目標を設定する力	人	116	2	15	67	31	1	0.90
	%	100	1.7	12.9	57.8	26.7	0.9	2
文章を書く力	人	116	0	8	67	41	0	0.72
	%	100	0.0	6.9	57.8	35.3	0.0	1
情報を統合する力	人	116	1	5	48	61	1	0.53
	%	100	0.9	4.3	41.4	52.6	0.9	1
資料や文献を調べる力	人	116	0	7	47	62	0	0.53
	%	100	0.0	6.0	40.5	53.4	0.0	1

†：回答点の平均値

††：回答点の中央値

大変ある（3点）、ある（2点）、少しある（1点）、ほとんどない（0点）として算出

IV. 結 果

1. 調査票の集計結果

調査票は180通送付し、116通が回収された（回収率64.4%）。すべてを有効回答として分析した。回答者の56.9%が11年以上の看護教員としての経験をもっていた。2年課程（通信制）での教員経験については「6～

7年」が22.4%と最も多かった。

1) 2年課程（通信制）入学時の学生の力

入学時に学生が身につけていると感じる力について、平均値が2（ある）を超える項目はなく、最も平均値が高かったのは「看護の仕事に楽しさを感じる事（1.51）」、次いで「モチベーションを維持する力（1.47）」であった。最も平均値が低かったのは、「資料や文献を調べる力（0.53）」「情報を統合する力（0.53）」であった（表1）。

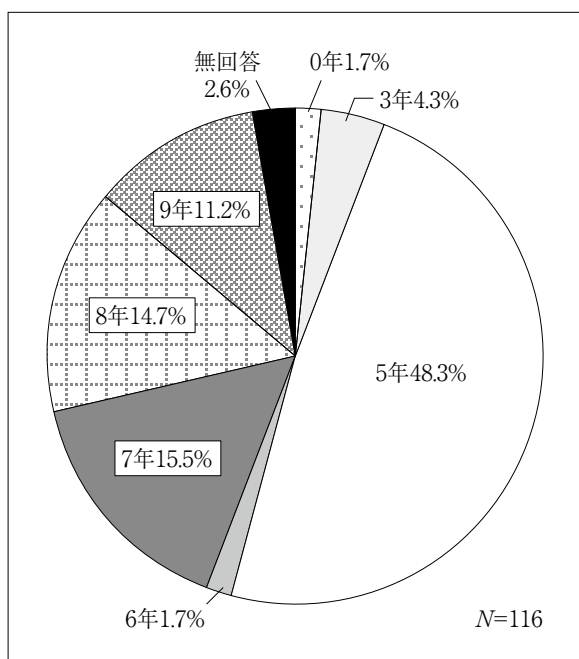


図1 2年課程（通信制）への入学要件として適切だと考える業務経験年数

2) 2年課程（通信制）への入学要件として適切だと考える業務経験年数

「5年」が約半数（48.3%、56人）を占め、次いで「7年」が15.5%（18人）、「8年」が14.7%（17人）であった（図1）。

3) 入学要件としての業務経験年数を短縮した場合の学生の学習達成度の変化

「高くなる」以上の回答を得た項目はなく、ほとんどが0付近の「変わらない(0)」に近い値であった（表2）。

4) 入学要件としての業務経験年数を短縮した場合に教育上対策が必要なこと

入学要件としての業務経験年数が10年よりも短縮された場合に、教育機関として必要になると考えられる対策について、質問した12項目中9項目において、平均値2（まあまあ必要である）より平均値が高かった。項目が最も対策が必要だとされた項目は、「見学実習の受け入れ施設を充実させること（2.39）」、次いで「教員を増員すること（2.32）」であった（表3）。

2. インタビュー調査の分析結果

承諾を得られた延べ46人に対してグループインタビューを実施した。1グループの人数は平均5.1人、実施時間は約1時間であった。

入学要件に関して、3つの課題が提示された。入学要件としての業務経験年数の短縮については、「現状のままがよい」と「短縮してもよい」の2つの意見があった。教育内容の課題については、実習の内容と課題についての意見があった。

1) 入学要件の課題

(1) 学生の業務経験に多様性があり年数が経験の質を保証しない

10年という業務経験年数に規定があっても「10年のうちに何か所で勤務するか、学生によってさまざま」「10年の中身の規定がないので月に何日か（だけ）働いても、1か月（と申請できる）」「業務経験の質がばらばらな状態で年数だけを条件とするのは難しい」など、学生が准看護師として就業した場所や経験が現状でも多様であり、年数がかならずとも経験の質を保証していないという意見があった。

(2) 業務経験年数だけでなく過去の学習経験の違いが学修に影響する

経験年数以外の入学要件として、中学卒業以上と定められている教育機関が多く、「中卒から大卒までいるから差がすごい」「中学卒業の人もいて（学生間の）基礎的な学力が全然違う」など、学習準備状況に差があり「（短期間で通信課程で学ぶには）、本当は大卒程度がよい」という意見があった一方、「学歴差ではなく個人差だと思う」という意見もあった。

(3) 入学者の選抜試験が形骸化している

業務経験を確認する履歴書類のほか、多くの教育機関で作文や小論文による入学者選抜試験が行われている。しかし、現状の履歴書類は業務経験の詳細を確認できる形式ではないことから、「（具体的な）就業（内容）がきちんとわかるような（履歴書の）形があったらよい」という意見があった。また、「（入学後）学業についていかれる（ことを確認する）ための試験を実施するのが大事だと思う」など、作文・小論文だけでなく看護を学ぶために必要な科目試験を導入すべきだという意見があった。

一方で、「（科目）試験を実施すると、入学者が減るかもしれない」「選抜できたらよいと思うが、選抜してなくても定員割れをしている」と、選抜方法の変更が、教育機関の運営上の課題にかかわるという意見もあった。

2) 教育内容の課題

2年課程（通信制）での教育内容については、特に実習について課題があるという意見があった。「（見学実習では）患者を受け持つわけではないので、対象者を全人的に見られない」「（見学だけなので）机上のもの（学習）と実践とが統合できない」などの課題が語られた。また、「2学年で120～130か所くらいになる。これを教員の力で全部探している」「養成所3年課程と大学の実習の隙間で実習をお願いしている状況」「学生はたくさん入学するが、受け入れてくれる病院、特に小児科は少ない」といった意見があった。

そして実習機関が決まっても、「（実習機関から）なにを見学させたらよいのかわからないと言われる」「2年課程（通信制）の実習でどういふことをするのか、なにをするのかということが受け入れ先に理解されていない現状がある」という指摘もあった。実習内容の説明をする

表2 入学要件としての業務経験年数を短縮した場合に変化する学習の達成度

項目	全体	回答選択肢						平均値 [†]	
		非常に 高くなる	高 くなる	変わ らない	低 くなる	非常に 低くなる	無回答	中央値 ^{††}	
今後看護の専門性を深めたいという 気持ち	人	116	8	54	39	11	1	3	0.50
	%	100	6.9	46.6	33.6	9.5	0.9	2.6	1
看護に対する考え方の変化	人	116	10	42	43	17	1	3	0.38
	%	100	8.6	36.2	37.1	14.7	0.9	2.6	0
自信をもつこと	人	116	4	36	57	13	2	4	0.24
	%	100	3.4	31.0	49.1	11.2	1.7	3.4	0
根拠のある看護実践を行う力	人	116	9	34	45	23	2	3	0.22
	%	100	7.8	29.3	38.8	19.8	1.7	2.6	0
他職種との連携を図る力	人	116	5	28	59	20	1	3	0.14
	%	100	4.3	24.1	50.9	17.2	0.9	2.6	0
対象のとらえ方(アセスメント能力)	人	116	2	27	58	20	6	3	-0.01
	%	100	1.7	23.3	50.0	17.2	5.2	2.6	0
患者へのかかわり方や接し方	人	116	3	17	61	29	3	3	-0.11
	%	100	2.6	14.7	52.6	25.0	2.6	2.6	0

†：回答点の平均値

††：回答点の中央値

非常に高くなる（2点）、高くなる（1点）、変わらない（0点）、低くなる（-1点）、非常に低くなる（-2点）として算出

にも、「110か所で実習しており、(教員)全員で手分けして出向いている」「(実習先が)各県にまたがっているので、実際に見に行くことができない」といった現状が語られた。

V. 考 察

本調査の結果から、教員は入学要件としての業務経験年数を短縮しても、学生の学習達成度に大きな影響はないと想定していることがわかった。本調査の実施直前に、国が規制緩和の方針を決め、入学要件としての准看護師業務経験年数を5年程度にするという方向に動いているという新聞報道(読売新聞社, 2015)があり、これが結果に影響した可能性は否定できないが、5年程度に短縮することも可能であると考えているものが多いことがわかった。また、インタビュー実施時点での教育内容や体制への課題も明らかとなった。これらを踏まえ、2年課程(通信制)の入学要件のうち、准看護師としての業務経験年数を短縮する際に必要だと考えた論点を以下の2点にまとめ、考察する。

1. 多様な学生の学習を保証する教育体制の整備の必要性

2年課程(通信制)には、多様な教育背景、経験をもつ学生が入学している。入学者選抜試験が形骸化してお

り、入学してくる学生の学習準備状態を確認することが難しい状況があった。選抜試験のあり方については、教育機関の理念や目的、求める学生像に基づき、その方法と内容を熟慮する必要がある。また、特に通信教育において、学生の基礎的な学力の不足は学習の成功を阻害する要因のひとつである(Means et al., 2014; Lehman et al., 2014)。さらに、入学時にあまり身につけていないとされた「資料や文献を調べる力」や「情報を統合する力」などの情報処理・統合にかかわる能力の不足も、通信教育課程からの脱落要因とされ、教育する側には適切な支援を行うことが求められていた(Means et al., 2014; Lehman et al., 2014)。

しかし大規模な教育機関では学年定員が250人にもなる2年課程(通信制)において、本調査実施時の保健師助産師看護師学校養成所指定規則で規定する専任教員数は7人であり、多様な背景とニーズをもつ学生に十分な支援をするには不足である。そして情報機器の使用については、看護教員以外の専門家や職員等による支援も検討する必要がある。本調査において教員は、入学要件を短縮する場合には「教員を増員すること」を求めていることから、学生支援を十分に行うための教員、職員等の人的環境の整備が必要であった。

表3 入学要件としての業務経験年数を短縮した場合に教育上対策が必要なこと

項目		全体	回答選択肢					平均値 [†]
			とても必要である	まあまあ必要である	あまり必要ではない	必要ではない	無回答	中央値 ^{††}
見学実習の受け入れ施設を充実させること	人	116	60	39	12	2	3	2.39
	%	100	51.7	33.6	10.3	1.7	2.6	3
教員を増員すること	人	116	60	32	18	3	3	2.32
	%	100	51.7	27.6	15.5	2.6	2.6	3
教員の教育力向上を図ること	人	116	43	57	11	1	4	2.27
	%	100	37.1	49.1	9.5	0.9	3.4	2
実習指導者の教育力向上を図ること	人	116	42	51	16	2	5	2.20
	%	100	36.2	44.0	13.8	1.7	4.3	2
見学実習の実習内容を充実させること	人	116	46	41	21	4	4	2.15
	%	100	39.7	35.3	18.1	3.4	3.4	2
教室、図書館、IT 環境など施設を充実すること	人	116	45	42	23	3	3	2.14
	%	100	38.8	36.2	19.8	2.6	2.6	2
国家試験対策に力を入れること	人	116	34	60	17	1	4	2.13
	%	100	29.3	51.7	14.7	0.9	3.4	2
面接授業科目の単位数を増加すること	人	116	44	39	26	4	3	2.09
	%	100	37.9	33.6	22.4	3.4	2.6	2
入学試験の内容を変更すること	人	116	42	38	25	7	4	2.03
	%	100	36.2	32.8	21.6	6.0	3.4	2
見学だけでない実習を行うこと	人	116	39	36	32	5	4	1.97
	%	100	33.6	31.0	27.6	4.3	3.4	2
放送大学等での一定の単位取得を入学の要件にすること	人	116	35	46	17	15	3	1.89
	%	100	30.2	39.7	14.7	12.9	2.6	2
見学実習の単位数を増加すること	人	116	31	29	41	10	5	1.73
	%	100	26.7	25.0	35.3	8.6	4.3	2

†：回答点の平均値

††：回答点の中央値

とても必要である（3点）、まあまあ必要である（2点）、あまり必要ではない（1点）、必要ではない（0点）として算出

2. 充実した臨地実習を行うための方法を検討する必要性

2年課程（通信制）の教育内容の特徴のひとつに、「紙上事例演習」「病院見学実習」「面接授業」で構成される独自の臨地実習がある。業務経験年数の短縮にあたって「見学実習の受け入れ施設を充実させること」が調査票調査でも教育上最も必要なこととされ、インタビューにおいても多くの課題が提示された。実習先の確保が難しいのは、2年課程（通信制）に限ったことではないが、学生数に対する教員数の少なさ、通信制であることから教育機関から離れた場所に居住する学生も在籍していることが、困難さを助長することにつながっている。看護師等養成所の運営に関するガイドライン（厚生労働省、

2015）では「学生の居住地が広域にわたる場合は、学生の利便性を考慮し実習施設を確保すること」とされており、教育機関からみると遠方で、情報やコネクションが少ない地域で、実習先を獲得する必要があるからである。さらに、2年課程（通信制）の実習については、実習施設の指導者が見学実習を行う学生の学習を適切に支援できていないという指摘や、実習で見学してきたこと、学生が机上での学習とを統合することが難しいという意見があり、実習施設の選択に関する規定と、実習内容および方法を検討することが必要であることがわかった。

なお、本研究実施後の平成30（2018）年4月1日に、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令案が施行され、入学要件として必要な准看護師と

しての業務経験年数が7年に短縮されると同時に、必要教員数が10人へと増員された。臨地実習のあり方の検討に関しては、本研究の結果を受け平成28（2016）年度に新たな研究が実施された。しかし10年から7年への短縮に明確な根拠はなく、看護基礎教育を通信制で行う場合、どのような方法で行うことが効果的なのか、検証されていない。

加えて、2年課程（通信制）に入学する准看護師の教育制度については、1996年に厚生省（当時）の「准看護婦問題調査検討会報告書」（日本看護協会出版会、1997）において「21世紀の早い段階を目途に、看護婦養成制度の統合に努める」とされながら、いまだ実現していない。2年課程（通信制）の教育の検討とともに、准看護師制度を含めた現在の日本の看護基礎教育制度の全体のあり方について検討を続けることが必要である。

VI. 結 論

入学要件としての業務経験年数の短縮を検討するにあたり、2年課程（通信制）の学生と教育の状況を教員に調査した。教員は入学要件としての業務経験年数を短縮しても、学生の学習達成度に大きな影響はないと考えていた。入学要件の見直しに関する論点として、多様な学生の学習を保障する教育体制の整備と、充実した臨地実習の内容や方法を検討することの必要性が明示された。

謝辞

本調査にご協力くださったすべてのみなさまに深く御礼申し上げます。また、調査・分析にご尽力いただいた研究班の釜薙敏先生、勝又浜子先生、中村和代先生、百瀬栄美子先生に感謝いたします。なお本研究は、平成27年度厚生労働科学研究費特別事業：看護師2年課程（通信制）への進学者の修業年限と就業内容に応じた教育内容に関する研究（代表者：井部俊子）の一部である。

引用文献

- 国家戦略特別区諮問会議（2015）：国家戦略特区における追加の規制改革事項等について（抄）。平成27年3月19日，<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000107041.pdf>（2018/7/23）。
- 厚生労働省（2001）：看護師等養成所の運営に関する指導要領。<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000021c5z-att/2r98520000021cze.pdf>（2018/7/23）。
- 厚生労働省（2013）：保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令案（仮称）について。<http://search.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000138491>（2018/7/23）。
- 厚生労働省（2015）：看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gijiroku/_icsFiles/fieldfile/2016/11/15/1379378_04.pdf（2018/7/23）。
- 厚生労働省（2016）：保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の交付について。https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc2201&dataType=1&pageNo=1（2019/1/12）。
- Lehman RM, Conceicao SCO（2014）：*Motivating and Retaining Online Students ; Research-Based Strategies That Work*. 5-10, Jossey-Bass, Sanfrancisco.
- Means B, Baika M, Murphy R（2014）：*Learning Online What Research Tells Us about Whether, When and How*. 148-149, Routledge, New York.
- 日本看護協会出版会（1997）：2001年に准看護婦養成停止の実現を『准看護婦問題調査検討会報告書』完全収録。59-68，日本看護協会出版会，東京。
- 日本経済再生本部（2015）：日本再興戦略改訂2015：未来への投資・生産性革命。平成27年6月30日閣議決定，<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/dailjip.pdf>（2018/7/23）。
- 読売新聞社（2015）：看護師資格へ道拡大准看護師「実務10年」を半減。読売新聞，2015年7月5日付朝刊，14版，1面。

Situation and Issues of Nursing Students in the Two-year Correspondence Diploma Program

—A Discussion about Revision of Admission Requirement—

Hiromi Oku¹⁾, Toshiko Ibe²⁾, Yuriko Miura¹⁾, Miwako Matsutani³⁾

1) St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

2) IBE Institute of Nursing Administration

3) International University of Health and Welfare, School of Nursing at Narita

Purpose : The Japanese government recommended reducing years of working experience required for admission to the two-year correspondence nursing program. This study aimed to clarify the status of education in the two-year program and to summarize the points of concern toward the implementation of this policy.

Method : We conducted a quantitative survey and interviews targeting educators in two-year programs. Results of the quantitative study were summarized by item. Regarding the interviews, we extracted narrative data with similar meaning, and generated themes. The research period was from August to September 2015.

Result : Questionnaires were sent to 180 educators, and 116 were collected (recovery rate : 64.4%). About half of the respondents deemed five years' work experience appropriate as admission requirement. They indicated that students' "ability to examine written data and literature" and "ability to consolidate information" at the time of admission need to improve. They also thought that changing the entrance requirements does not significantly affect learning achievement. However, "enhancement of facility for practicum" and "increase in number of educators" were recognized as issues to be addressed. Interviews were conducted with 46 educators. They recognized that the current entry requirements allowed entrance of students with enormous differences in educational and employment backgrounds, and the admission selection method needs to be reconsidered. The method of clinical practicum was also recognized as needing reform.

Conclusion : Educators who participated in this study considered that the reduced years of working experience as admission requirement would not have a significant influence on students' learning achievement. In reviewing the admission requirements, they noted the necessity to develop an educational system that guarantees the learning of diverse students and the methods for substantial clinical training.

Key words : nursing students, basic nursing education, correspondence education, 2- year diploma program, admission requirement